

国民年金の解説

国民年金のうち、福祉年金については、昨年十一月からすでに一部の人たちには支給が始まっているし、新聞ラジオなどに出てくるので「国民年金」という言葉はよくご存じかと思われます。が、老齢の人、障害、母子の方たちが受

なぜこの制度は

必要か

まず、日本は敗戦後、平和な福祉国家に造り替えることを内外に約束したし、国は社会保障制度を確立して、国民の福利をはからなければならぬと憲法で決めたわけです。では、社会保障制度とは何かと

人間は、いつどこでど

んな不幸な目にあうか

全然予測できないわけ

で、もしその不幸にあつた場合個人の不幸を社会の力で分担しようというもので、すでに世界の文化国家といわれる国々では、はるかに進んだこの制度が確立しているといわれます。

社会保障は二本の柱で支えられます。人間は、たとえ健康であつても歳をとつては必ず働けな

て今では本村でも堅実に運営されています。

他の一本の柱が「所得保障」です。人間は、たとえ健康であつても歳をとつては必ず働けな

れて今では本村でも堅実に運営されています。

高瀬川橋の架設工事はいよいよ着手されることになり、六月八日測量が行われた。

この工事は二カ年継続事業

いよいよ高瀬川橋も永久化

で総工事費は二千五百万円以上にみこまれており、位

置の関係から

- (1) けている福祉年金のほかに、成人された人なら誰
- れでもが入らなければならぬ国民年金の制度が、明
- 年四月から始まるわけですが、その受付や手帳を渡す手続
- 務は、この十月一日から始められることになつたので、こ
- れからそれを説明して、皆さんのご協力を願いしたいと
- 思います。

おいては、生活隔離、つまり富裕と貧乏との差があります。開いてゆくのは避けられない傾向であるといわれています。

第四には、家族制度の分解といおうか、今の若い人々は自主性に富み「老後は自分の力で生活する」との思想が次第に強まっているなどのことから、老後に至つてからの所得を確保しておくことは絶対的な必要事とされています。

国民年金とは

被保険者 日本に住所のある二

〇才から五九才までの日本人は全部「被保険者」となります。

ただ、「公的年金各法の年金」つまり、厚生年金、恩給、公務員共済の年金、遺族年金、留守家族手当等を受けることのできる人とその配偶者及び学生(定期時制、夜間部、通信教育を除く)は被保険者から除かれます。

それは(学生を除いて)国民年金と二重加入になるからです。

この除かれる人々のほかは、全部必ず入らなければならぬことになつています。

もし、年齢に達していく届出しないときは罰則があるし、虚偽の届出があれば更に重い罰則が適用されます。

かならず入らなければならぬことで、明年四月一日以前に

二〇才以上になる方は、ことしの一〇月一日から受付が始まり

「国民年金手帳」が渡されます

また、その前に、この六月から

「世帯調査」が行われますから

協力を願いします。

国民年金も一つの保険制度ですが、民営保険や厚生年金、簡易保険などの国営保険に比べて、保険のような利点があります。第一は、この事業の事務費が全額国庫負担であること、簡保や民間保険が掛金(保険料)のなかから支弁されるのに比較して

年金加入で老後も安心

全村民が適用対象に

化してゆく傾向があることです。厚生省人口問題研究所での推計によれば、人口一〇〇人に対し六五才以上の老人が、昭和三十三年で五・五人、同四〇年では六年で五・五人、同四〇年には九・一人と増えてゆきます。従つて次第に老人子供が多く若い働く人は割合に少なくなることになり、ます。また、平均寿命の伸びも戦後特に著しくなっています。

第三には、資本主義社会に

新たに仮橋の架設も必要です。しかし、また橋長などから非常に大規模な工事となることが予想される。これが完成すれば本村と本荘間の国道の橋梁はすべて永久化され、どんな水害にもビクともしないで交換の確保ができることになるので早い完成が望まれる。

なお着工は来月に予定されており、位

量】

【老齢年金】

国民年金には老齢年金、障害年金、母子年金、遺児年金、寡婦年金の五種類があります。順を追つて説明します。

さて、明年四月一日から被保険者となる人は、同日で二〇才以

再生産につながるいとなみとして

みんなで考え、みんなで実践

農家の休日



カレンダーには日曜日を示す赤い数字が並んでいる……この日曜日は一体農家の人々とどれだけの関係があるだろうか

「今日は日曜だから農協や役場に行つても用事がはたせない」子供たちの学校が休みといつた程度のものでないだろうか。

農家にも休日がほしい、こんな声が大きくなってきたことは事実である。またこれが実行に移されているところも次第に多くなつてきている。

毎日働きづくめでは疲労と病気の原因になり、そして自分の時間というものを持つことができない。とりわけ一家の働き手となつていてる青壯年、婦人（嫁）層の人々にこれがいえるのでなかろうか。

経営を合理化すると

しかしこれに対しても「農家は雨の日が休みだ」、「盆や正月、節句がある、何より半年は雪の下で毎日休みのようなものだ」という考え方もあり否定できない事実にたつものである。

この休日を考えていく場合にはとくに気象と立地条件に左右されやすい水稻単作の一本勝負、規模と労働力、そして経営状態にも問題が関連してくる。また酪農などをはじめ次第に経営が



保母さんも農繁期！

農家の田植えで一家総動員、小さい子どもたちの面倒を見るのが悩みの種であったが、藏の永慶保育園では村社会福祉協議会と地域有志の人々の協力で2週間にわたつて季節保育所を併設、同時にこの様な子どもたちをあずかつて感謝された。園児だけでも手一杯のところにたくさんのお客さまを迎えた保母さんたちは農家の人のこのけの忙しさでうれしい悲鳴を上げていた【写真は元気に遊ぶ季節保育所の子どもたち】

一般に農家で今日は仕事が休みということさえ難かしいといえる。それに従来から「休みの日」とされてきた祭日や節句など、どのように関係づけていくかという問題もある。

また「隣りも勤らいでいるからうちでも……」という考え方、嫁の立場にたつ人たちが「本を読むと家人の目が光る」とかり家にいると思苦しいから遅くまで、あるいは休みなく勤らく」といった家族関係のあり方など内面的な問題もあることが予想されても個人の力

休日を利用しての

この休日をとり上げていく場合の大重要な条件は人々の「共同」ということである。

経営の合理化、衣食住で代表される生活改善、人と人との関係の改善などどれ一つをとつて考

るとこれまでの三分の一の量ですむといわれるが、しかし実際ににはなかなか難しい。それと同時に、これまでの三つの量であります。それが切り替え

「百姓は貧乏なもの、根かぎり働かなければならぬもの」という根強い生活感情からぬけることが第一に必要である。

そして自分たちこれまでの生活や仕事に対する考え方をあらためてみつめなおし、経営の合理化の工夫とこれに応じた労働力の配分計画、地域や部落の合理化などを真剣になつて進めることもつと時間を生みだし、ゆとりをもつた生活にふみきつていかなければならぬ。それと同時に家庭生活の合理化と計画化、何よりも家族の間の温かい理解と協力も必要である。

こうしてこれまでの休み日などにも検討を加え、年間を通じた合理的な休息の日として休日を設けていきたいものである。

人間らしく生きたい

ともあれ休日の問題は毎日埋めている仕事から解放され、健康の保持とすることを第一義に、さらに生活をたかめ、自分の教育をたかめていく手段として考えていきたい。

「人間らしく生きたい」という願いは共通した願いである。疲れられたからやすむ休日でなく、明日のための休日でありたい。農村文化は「再生産につながるいとなみ」であるとすれば、さしつめこの休日の問題は文化的な生活につながるものとも身近かな問題であり大事なものとして考えていきたいものである。

前向きの姿勢で現実の生活をたかめよう

で解決できるものは少ない。個人であるいは個々の家庭でこれらをとり上げてもおのずとそこには限度があり、むしろいろいろな問題で押しつぶされてしまふ危険がつきまと。

どうしても部落あるいは地域、団体などでそれぞれの実情にもとづき共同の力で解決し実行におかなければならぬ。それが必要である。

さらにこの休日を利用して目的のしつかりした生活向上のための共同学習を進めることなどもこれを長続きさせ、習慣づけていく過程にあつては有益な一つの方法でなかろうか。

何ごとも社会の共同性が要求される今日、この「休日」を考える場合にはなおさらそれが必要であると思われる。

さるにこの休日を利用して目的の共同学習を進めることなどもこれと連携させ、習慣づけていく過程にあつては有益な一つの方法でなかろうか。